

## 1-9 フランス語学フランス文学

### 研究・教育活動の概要と特色

当専攻分野はフランス文学・フランス語学を中心に、フランス語を窓口とするフランス語圏全般の文化・歴史を対象とする研究活動を行っている。阿部宏教授はフランス語学、今井勉教授、ヤン・メヴェル准教授、黒岩卓准教授、島貫葉子助教はフランス文学が専門であるが、言語における主観性概念・日仏英対照言語学（阿部）、ヴァレリーの未刊草稿研究・象徴主義・クレオール文化（今井）、ベケット研究・デュラス研究・文学におけるメランコリー・フランス地域文学・フランス文学における日本の表象（メヴェル）、フランス中世文学・演劇・ルネッサンス文学・フランス語史（黒岩）、フランス語教育学（島貫）などその関心領域は多岐にわたっている。いずれにおいても緻密なテキスト読解、また文献資料や実例の具体的検討にもとづく堅実な研究態度は、講座創設以来の伝統である。

学部卒業の要件として卒業論文の執筆を義務づけており、学部教育においてはフランス語テキストを含む諸文化表象の読解のしかたを基礎から学ばせると同時に、各々の感性を通じて読み取ったものをいかに論理的、説得的に表現するかについて、その方法論を養うことを主眼とした授業も開講している。大学院では、少人数制の利点を活かし、前期課程において、テキストの精読、参考文献の活用法など、専門研究の基礎を学習させる。同時に、文学の院生も語学研究の基礎を、語学の院生も文学研究の基礎を学び、文学・語学について総合的な知識を身につけるよう指導している。後期課程においては、論文執筆や研究発表の実践的指導を綿密に行っており、全国学会の学会誌への投稿や学会発表を奨励している。また、当専攻分野出身の研究者と院生を主たる会員とする学会誌を刊行しており、院生はここに積極的に論文執筆を行っている。学部から博士後期課程を通じて、生きたフランス語の表現能力を養うためフランス留学を奨励しているのも当専攻分野の大きな特色である。

### I 組織

#### 1 教員数（2013年9月末現在）

教授：2

准教授：2（含フランス人教員1）

講師：0

助教：1

教授：阿部 宏，今井 勉

准教授：ヤン・メヴェル，黒岩 卓

助 教：島貫葉子

## 2 在学生数（2013年9月末現在）

学部 (2年次以上)	学部 研究生	大学院博士 前期	大学院博士 後期	大学院 研究生
27	0	3	4	0

## 3 修了生・卒業生数（2009～2013年度）

年度	学部卒業生	大学院博士課程 前期修了者	大学院博士課程 後期修了者 (含満期退学者)
09	7	3	1
10	7	2	2
11	7	1	1
12	3	3	0
13	1	0	0
計	25	9	4

\*2013年度は、9月末までの数字

## II 過去5年間の組織としての研究・教育活動（2009～2013年度）

### 1 博士学位授与

#### 1-1 課程博士・論文博士授与件数

年度	課程博士授与件数	論文博士授与件数	計
09	1	0	1
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
13	0	0	0
計	1	0	1

\*2013年度は、9月末までの数字

#### 1-2 博士論文提出者氏名、年度、題目、審査委員

宮本直規，2009 年度，フランス語の二次的述定における現在分詞—動詞性と形容詞性の混交—

審査委員：教授・阿部宏（主査），教授・後藤斉，准教授・ヤン・メヴェル，准教授・今井勉

## 2 大学院生等による論文発表

### 2-1 論文数

年度	審査制学術誌 (学会誌等)	非審査制誌 (紀要等)	論文集 (単行本)	その他	計
09	4	1	0	1	6
10	5	1	0	0	6
11	4	0	0	0	4
12	4	0	0	0	4
13	1	0	1	0	2
計	18	2	1	1	22

\*2013 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の掲載が決定しているものも含む。

### 2-2 口頭発表数

年度	国際学会	国内学会	研究会	その他	計
09	0	5	0	1	6
10	1	1	1	0	3
11	1	3	0	0	4
12	0	1	2	0	3
13	0	2	3	0	5
計	2	12	6	1	21

\*2013 年度は 9 月末までの数字。ただし、以後の発表が決定しているものも含む。

### 2-3 上記の大学院生等による論文・口頭発表の中の主要業績

#### (1) 論文

荒川恒治 (DC) 「形容詞 *profond* の具象的意味と抽象的意味の分析とその関連性」, 『文化』第 73 巻 3・4 号 (東北大学文学会), pp. 62-82, 2010 年 3 月.

石田雄樹 (MC) 「マルキ・ド・サド『司祭と臨終の男との対話』におけるソツィーニ派の影響について」, 『フランス文学研究』第 32 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 1-11, 2012 年 2 月.

石田雄樹 (MC) 「マルキ・ド・サド『美德の不幸』における幸福観の検討」,

- 『フランス文学研究』第 33 号（東北大学フランス語学フランス文学会），  
pp. 1-11, 2013 年 2 月.
- 石田雄樹（MC）「Le dualisme autour de l'idée du bonheur dans *Les infortunes de la vertu* du Marquis de Sade」（マルキ・ド・サド『美德の不幸』における幸福を巡る二元論），『Nord-Est』（日本フランス語フランス文学会東北支部会報）第 6 号 WEB 版，2013 年 4 月掲載（<http://genesis.hss.iwate-u.ac.jp/sjllf-tohoku/bull/>）；第 5-6 号合併号，pp.66-77, 2013 年 5 月.
- 上田督（DC）「『告白』における身体言語への意志」，『フランス文学研究』第 31 号（東北大学フランス語フランス文学会），pp.1-19, 2011 年 2 月.
- 島貫葉子（専門研究員）「Affectation d'impassibilité et « lyrisme critique » dans la première trilogie de Samuel Beckett」，『Nord-Est』（日本フランス語フランス文学会東北支部会報）第 2 号，pp. 77-87, 2009 年 9 月.
- 白石冬人（MC）「マラルメ初期ソネにおける規則」，『フランス文学研究』第 33 号（東北大学フランス文学会），pp. 12-22, 2013 年 2 月.
- 新田直穂彦（DC）「フランス語に於ける与格と授与動詞との共起について」，『文化』第 75 巻第 3・4 号（東北大学文学会），pp. 48-60, 2012 年 3 月.
- 新田直穂彦（DC）「lui+donner と y+donner との対立」，『フランス文学研究』第 33 号（東北大学フランス語フランス文学会），pp. 36-51, 2013 年 2 月.
- 新田直穂彦（DC）「lui+mettre と y+mettre との対立」，『文化』第 76 巻第 3・4 号（東北大学文学会），pp. 101-122, 2013 年 3 月.
- 廣松勲（DC）「ケベック州のフランス語について」（発表原稿の加筆訂正版），第 58 回東北大学フランス語学フランス文学研究会（於東北大学），2009 年 6 月，（<http://www.sal.tohoku.ac.jp/French/document/Quebec.pdf>）.
- 廣松勲（DC）「Remémoration créative de Patrick Chamoiseau – La description de la « non-espace » dans *Un Dimanche au Cachot*」，『フランス語フランス文学研究』第 95 号（日本フランス語フランス文学会），pp. 141-156, 2009 年 9 月.
- 廣松勲（DC）「La narration de la « non-histoire » dans *Mère-Solitude* d'Émile Ollivier」，『フランス文学研究』第 30 号（東北大学フランス語フランス文学会），pp. 15-32, 2010 年 2 月.
- 廣松勲（DC）「Écrire l'oralité en péril – Stratégie d'autoreprésentation chez Patrick Chamoiseau –」，『フランス文学研究』第 31 号（東北大学フランス語フランス文学会），pp. 20-34, 2011 年 2 月.
- 廣松勲（DC）「Éxil et « non-lieu » – La description spatiale dans *Passages* d'Émile

- Ollivier」(亡命と「非一場所」—エミール・オリヴィエの『パッサージュ』における空間記述—), 『Nord-Est』(日本フランス語フランス文学会東北支部会報)第3号WEB版, 2010年6月掲載(<http://genesis.hss.iwate-u.ac.jp/sjllf-tohoku/bull/>); 第3-4号合併号, pp. 33-47, 2011年5月.
- 廣松勲(DC)「Mémoire et lieu de créolité dans *Texaco* de Patrick Chamoiseau」, 『フランス文学研究』第32号(東北大学フランス語フランス文学会), pp. 22-37, 2012年2月.
- 廣松勲(DC)「Mélancolie postcoloniale : relecture de la mémoire collective et du lieu d'appartenance identitaire chez Émile Ollivier et Patrick Chamoiseau」, thèse de doctorat, Université de Montréal, soutenu devant un jury présidé par Gilles Dupuis et composé de Lise Gauvin, de Christiane Ndiaye et de Joubert Satyre, le 23 mars 2012.
- 深井陽介(DC)「L'écriture du rêve dans *Une saison en enfer*」(『地獄の季節』における夢のエクリチュール), 『日本館多分野研究会ノート』第3号(パリ国際大学都市日本館多分野研究会), pp. 9-25, 2009年.
- 深井陽介(DC)「Le concept de l'Histoire dans « Mauvais sang »」(「悪しき血筋」における歴史概念), 『フランス文学研究』第30号(東北大学フランス語フランス文学会), pp. 3-14, 2010年2月.
- 深井陽介(DC)「La polyphonie de « Délires I – Vierge folle »」(「錯乱 I —狂った処女」における多声性), *Rimbaud Vivant*, No 49, pp. 55-72, juin 2010.
- 深井陽介(DC)「La polyphonie de Rimbaud」, thèse de doctorat, Université Paris 4, soutenue devant un jury présidé par André Guyaux et composé de Dominique Combe, Jean-Nicolas Illouz, Michel Murat, le 18 mars 2011.
- 深井陽介(専門研究員)「La fin d'un cauchemar ? – une lecture de *Matin* d'Arthur Rimbaud」(「悪夢の終わり?—アルチュール・ランボアの「朝」を読む」)『フランス文学研究』第32号(東北大学フランス語フランス文学会), pp. 12-21, 2012年2月.
- 翠川博之(専門研究員)「サルトル演劇に見るモラルの研究」, 平成20年度~平成22年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書(研究課題番号20520275), 140p. 2011年3月.
- 翠川博之(専門研究員)「サルトルの演劇論 離見演劇」, 『サルトル読本』, 法政大学出版局, 2013年12月刊行予定.
- 宮本直規(DC)「現在分詞節の意味上の主語について」, 『フランス文学研究』

第 30 号（東北大学フランス語フランス文学会）， pp.33-50， 2010 年 2 月。

## （2）口頭発表

荒川恒治（DC）「形容詞 *profond* の抽象的意味の分析」，日本フランス語フランス文学会（於中央大学），2009 年 5 月 23 日。

石田雄樹（MC）「マルキ・ド・サド『美德の不幸』における幸福観」，日本フランス語フランス文学会東北支部大会（於岩手県立大学），2012 年 11 月 3 日。

石田雄樹（DC）「レチフ・ド・ラ・ブルトンヌにおける「正しき不平等」：『アンドログラフ』と『テスモグラフ』を中心に」，日本フランス語フランス文学会（於別府大学），2013 年 10 月 26 日。

島貫葉子（専門研究員）「サミュエル・ベケットの“リリズム・クリティック” — 前期小説三部作における自己同一性と空間表象の問題 —」，日本フランス語フランス文学会（於中央大学），2009 年 5 月 23 日。

島貫葉子（専門研究員）「サミュエル・ベケットの 演劇作品における女性のイメージ」，国際シンポジウム「女性・ヒロイン・社会」（於岩手大学），2010 年 9 月 5 日。

白石冬人（MC）「マラルメのソネ脚韻構成についての一考察」，関西マラルメ研究会（於大阪大学），2012 年 9 月 20 日。

白石冬人（MC）「マラルメ初期詩篇再読」，日本マラルメ研究会（於国際基督教大学），2013 年 6 月 1 日。

廣松勲（DC）「ケベック州のフランス語について」，第 58 回東北大学フランス語学フランス文学研究会（於東北大学），2009 年 6 月 19 日。

廣松勲（DC）「亡命と「非-場所」—エミール・オリヴィエの小説『パッサージュ』を中心に—」，日本フランス語フランス文学会東北支部大会（於山形大学），2009 年 11 月 28 日。

廣松勲（DC）「La Correspondance avec les éditeurs — Histoire éditoriale des œuvres littéraires d'Émile Ollivier —」，ケベック文学及び文化・大学間研究所 (CRILCQ) 主催研究会（於モントリオール大学），2011 年 2 月。

廣松勲（DC）「Énigme de l'enracinement dans *La Brûlerie* d'Émile Ollivier」，UNIFA (Université Francophone d'Asie)（於日仏会館），2011 年 10 月 1 日。

深井陽介（DC）「『地獄の季節』「錯乱I—狂った処女—」における多声構造」，日本フランス語フランス文学会（於中央大学），2009 年 5 月 23 日。

深井陽介（専門研究員）「僧服の下の心—『地獄の季節』のプロトタイプについて」,  
日本フランス語フランス文学会（於一橋大学）, 2011年5月28日.

深井陽介（専門研究員）「『イリュミナシオン』自伝的作品群における「私」と語  
りの構造」, 日本フランス語フランス文学会（於小樽商科大学）, 2011年10  
月8日.

深井陽介（専門研究員）「ランボーの「民主主義」を解読する」, 日本フランス語  
フランス文学会東北支部大会（於弘前大学）, 2011年11月12日.

翠川博之（専門研究員）「倫理のパラドクスと回転装置」, シンポジウム「サル  
トルのモラル論 人間, 他者, 歴史をめぐって」（東北大学大学院文学研究  
科フランス語学フランス文学研究室主催）（於東北大学）, 2009年10月9  
日.

翠川博之（専門研究員）「*Cahiers* における主体の能動性と受動性」, 日本サルトル  
学会ワークショップ「*Cahiers pour une morale* を読む」（於関西学院大学）,  
2009年12月5日.

翠川博之（専門研究員）「『バリオナ』のミステール」, 日本サルトル学会（於  
立教大学）, 2012年12月15日.

### 3 大学院生・学部生等の受賞状況

廣松勲（DC）「日本フランス語フランス文学会 2011年度学会奨励賞」  
（対象論文「Remémoration créative de Patrick Chamoiseau —La description du  
« non-espace » dans *Un Dimanche au Cachot*」）, 2011年5月29日.

### 4 日本学術振興会研究員採択状況

2012年度 PD 採用 1名

### 5 留学・留学生受け入れ

#### 5-1 大学院生・学部学生等の留学数

2009年度 学部1名：ストラスブール大学（フランス）

2010年度 大学院1名：ジュネーブ大学（スイス）

2011年度 学部2名：ストラスブール大学（フランス）, リヨン大学（フラン  
ス）, 大学院2名：リヨン高等師範学校（フランス）

2012年度 学部2名：ストラスブール大学（フランス）, グルノーブル大学（フ  
ランス）

2013年度 学部3名：レンヌ大学（フランス）、リヨン大学（フランス）

## 5-2 留学生の受け入れ状況

年度	学部	大学院	計
09	1	0	1
10	1	1	2
11	0	0	0
12	0	1	1
13	2	0	2
計	4	2	6

## 6 社会人大学院生の受け入れ状況

年度	前期課程	後期課程	計
09	1	0	1
10	0	0	0
11	0	0	0
12	1	0	1
13	0	0	0
計	2	0	2

## 7 専攻分野出身の研究者・高度職業人

### 7-1 専攻分野出身の研究者

2010年度 島貫葉子 東北大学 助教

2011年度 宮本直規 東北学院大学 専任講師

2013年度 深井陽介 東海大学 専任講師

### 7-2 専攻分野出身の高度職業人

2011年度 中高教員1名

## 8 客員研究員の受け入れ状況

なし

## 9 外国人研究者の受け入れ状況



ヨン・ジャイサン，昌原大学（大韓民国），教授（2009年11月～2010年4月）

## 10 刊行物

『フランス文学研究』，東北大学フランス語フランス文学会，年刊

## 11 学会・研究会・講演会・シンポジウム等の開催・事務局等引き受け状況

- 2009年4月 Antoine Compagnon 氏講演会「Le roman photographique d'aujourd'hui」（司会・通訳：今井勉）
- 2009年6月 Philippe Berthier 氏講演会「Stendhal et Racine」（司会：阿部宏）
- 2009年9月 Colloque international Orients de Marguerite Duras（オーガナイズ：Yann MEVEL，今井勉）
- 2009年10月 シンポジウム「サルトルのモラル論 人間・他者・歴史をめぐる」（澤田直，竹本研史，水野浩二，翠川博之，オーガナイズ：翠川博之，司会：島貫葉子）
- 2010年3月 Michel Deguy 氏講演会「Comment j'ai écrit certains de mes poèmes」，（翻訳・解説：今井勉）〔東北大学高等教育開発推進センター，アリアンスフランセーズ仙台，在日フランス大使館との共催〕
- 2010年6月 Dominique Rabaté 氏講演会「窓は，開けるか もしくは閉めねばならぬ」〔東北大学大学院情報科学研究科との共催〕
- 2010年10月 Lise Gauvin 氏講演会「La francophonie littéraire : un archipel en devenir」（司会・通訳：廣松勲）
- 2010年10月 Michel Murat 氏講演会「La prose narrative de Rimbaud : étude du prologue d'*Une saison en enfer*」（司会・通訳：今井勉）
- 2011年1月 フランス文学専修・就職講演会
- 2011年2月 Samuel Beckett セミナー (François Noudelmann 氏ほか) (司会：ヤン・メヴェル)
- 2011年10月 Dany Laferrière 氏講演会「Écrire entre Haïti et Québec」（司会・通訳：廣松勲）
- 2011年10月 Jean-Luc Steinmetz 氏講演会「La double naissance d'*Une saison en enfer*」（司会・通訳：今井勉）
- 2011年10月 Darwin Smith 氏講演会「La carrière d'Arnoul Gréban, dramaturge, chanteur et pédagogue du XV<sup>e</sup> siècle, de Paris à Florence」（司会・

- 通訳：黒岩卓)
- 2011年10月 Bruno Clément 氏講演会「Littérature et philosophie : comment les distinguer ?」 (司会：ヤン・メヴェル)
- 2011年10月 第二回 Samuel Beckett セミナー (司会：ヤン・メヴェル)
- 2011年10月 Darwin Smith 氏講演会「La transmission orale et écrite à la fin du Moyen Âge : le cas des textes dramatiques」 (司会・通訳：黒岩卓) [早稲田大学文学学術院フランス語フランス文学研究コースとの共催]
- 2011年12月 シンポジウム「古い文学とわたしたち」(小栗栖等, 黒岩卓, 岩下綾, 千川哲生) (司会：黒岩卓)
- 2012年2月 フランス文学専修・就職講演会
- 2012年5月 Antoine Compagnon 氏講演会「Photogénie de Baudelaire」 (司会・通訳：今井勉)
- 2012年7月 Brigitte Prost 氏講演会「Pour une petite histoire du théâtre en Occident」 (司会：ヤン・メヴェル, 通訳：黒岩卓)
- 2012年11月 Eric Faye 氏・堀江敏幸氏討論会 (司会：ヤン・メヴェル, 通訳：廣松勲)
- 2012年12月 シンポジウム「無名時代 ～表現の獲得と揺らぎ～」(鎌田隆行, 今井勉, 深井陽介, 中島淑恵) (司会：阿部宏)
- 2013年1月 Nelly Labère 氏講演会 (司会：黒岩卓)
- 2013年3月 フランス文学専修・就職講演会
- 2013年3月 Bruno Clément 氏講演会 (司会：ヤン・メヴェル)
- 2013年10月 Nathalie Koble 氏講演会 (司会：黒岩卓)
- 2013年11月 Bénédicte Gorrillot 氏講演会 (司会：ヤン・メヴェル)
- 2013年12月 Jean-Philippe Toussaint 氏講演会 (司会：ヤン・メヴェル)
- 2014年1月 Sjef Houppermans 氏講演会 (司会：ヤン・メヴェル)

## 12 専攻分野主催の研究会等活動状況

フランス語学フランス文学研究会 (専攻分野内研究会)

2009年度

第57回：4月24日. 第58回：6月19日. 第59回：7月24日. 第60回：10月16日. 第61回：11月28日. 第62回：12月11日.

2010年度

第 63 回：4 月 23 日．第 64 回：5 月 21 日．第 65 回：6 月 25 日．第 66 回：7 月 30 日．第 67 回：9 月 24 日．第 68 回：11 月 19 日．第 69 回：11 月 26 日．  
第 70 回：12 月 10 日．

#### 2011 年度

第 71 回：5 月 20 日．第 72 回：6 月 24 日．第 73 回：7 月 29 日．第 74 回：9 月 26 日．第 75 回：11 月 25 日．第 76 回：1 月 20 日．

#### 2012 年度

第 77 回：5 月 18 日．第 78 回：6 月 15 日．第 79 回：7 月 27 日．第 80 回：9 月 28 日．第 81 回：10 月 18 日．第 82 回：11 月 16 日．第 83 回：1 月 25 日．

#### 2013 年度

第 84 回：4 月 19 日．第 85 回：5 月 22 日．第 86 回：5 月 24 日．第 87 回：6 月 21 日．第 88 回：7 月 29 日

### 1 3 組織としての研究・教育活動に関する過去 5 年間の自己点検と評価

阿部宏教授（フランス語学，対照言語学），今井勉教授（フランス文学，クレオール文学），ヤン・メヴェル准教授（フランス文学，フランス地域文学），黒岩卓准教授（フランス中世文学演劇，フランス語史），島貫葉子助教（フランス文学，フランス語教育学）の 4 名が専攻の研究・教育活動に従事している．スタッフ数は少ないながら，専門領域においてヴァリエーション豊かでバランスに富んだ陣容であり，その研究対象も従来の狭い意味でのフランス文学・語学研究の領域を超えたものとなっている．また，教員スタッフ全員が博士号を取得している．

スタッフ間の学問的関心は相互に有機的に重なり合う面も多く，研究面での情報交換は大学院生や卒業生も交えて常に活発に行われている．世代の違いを超えて，教員，大学院修了者，大学院生，学部生間の交流が密で一体感があるのは，東北大仏文の伝統であり，研究室は常に知的な刺激に満ちた場となっている．

教員は，国内学会のみならず，国際学会での発表や司会，海外研修，海外学術調査，海外誌への執筆を積極的に行っており，講義や内部の研究会等を通じてその成果を院生に披露することを常に心がけている．また，他大学での集中講義，公開講座，講演会の講師を担当し，自らの研究内容を精力的に外部に発信することに努めている．教育活動は専門領域にとどまらず，文学部 1 年対象の講義，学部 1，2 年対象の全学教育にも積極的に関与し，後者において全学部の学生にフランス語の基礎文法，講読，作文，会話などを教えると同時に，前者においては初学者にフランス文化の面白さを

伝え、フランス語教育の裾野を広げる努力を行ってきた。さらに、当専攻分野では、外国人研究者、作家などを招いての講演会やコロック、あるいはフランス語教育、フランス文学、フランス語学関連のシンポジウムを頻繁に開催し、スタッフのみならず院生・学部生、東北圏の研究者にも研究の最前線に触れる機会を提供している。

学外の活動としては、日本フランス語学会編集委員・運営委員・学会誌編集長、日本フランス語フランス文学会編集委員など、全国学会で主要な役職を担当してきた。

学部学生の卒業論文は現代文学、近代詩、語学研究といった伝統的領域での研究が大部分を占めるが、ここ数年の傾向として映画、雑誌、料理等の文化表象一般にも関心が広がっている。近年、学生の関心にあわせて多様な講義を提供してきた効果が現れていると言えるだろう。

大学院は定員が各学年、修士2名、博士1名と小規模である利点を生かして、論文執筆、研究発表の予行練習など、綿密な指導を日常的に施している。院生は概して論文執筆や研究発表に積極的で、前期課程の段階から論文を発表する者もあり、後期課程ではほぼ全員が日本フランス語フランス文学会、日本フランス語学会など全国規模の学会での発表を経験している。査読を通過し、学会誌に原稿が掲載される例も増えつつある。

また、大学院在学者のほぼ全員がフランス留学を経験している。かつてはフランス政府給費やロータリー財団奨学生としての留学が多かったが、近年は、学内で整備された交換留学制度や日仏共同博士課程などの制度を利用する留学が増加している。留学経験を経て、学会発表をフランス語で行い、論文を仏文で書く者、市役所嘱託の通訳を務めた者などもおり、院生のフランス語運用能力はここ数年で飛躍的に伸びてきている。ルノー財団の奨学生としてフランスで経営学修士を取得し、帰国後、フランス大使館経済部や国際的企業に就職する例もでてきている。当専攻分野での教育活動は、フランス語を生かした高度職業人養成の機能をも果たしつつある。なお、博士後期課程学生においては、フランス語圏の大学で博士号を取得する例も少なくない。2011年には深井陽介氏がパリ第四大学で、2012年には廣松勲氏がモントリオール大学でそれぞれ博士号を取得している。

### Ⅲ 教員の研究活動（2009～2013年度）

#### 1 教員による論文発表等

##### 1-1 論文

阿部宏 「日本語における「望ましき」概念について」, *Proceedings of the International Conference in Japanese Studies; Civilisation of evolution. Civilisation*

- of revolution. Metamorphoses in Japan 1900-2000*, Jagiellonian University, Krakow, Poland, pp. 81-94, 2009年9月.
- 阿部宏 「Au moins, du moins, encore moins と主観性」, 『フランス語学研究』第44号(日本フランス語学会), pp. 33-48, 2010年6月1日.
- Hiroshi ABE « Une analyse de la structure du type “X n’est pas X. C’est Y.” », 『東北大学文学研究科研究年報』第61号, pp. 170-148, 2012年3月1日.
- Hiroshi ABE « L’Étude contrastive franco-japonaise sur la “désirabilité” », 『文化』(東北大学文学会)第75巻第3・4号, pp. 105-124, 2012年3月24日.
- 阿部宏 「川口氏のスーパー・プレディケイト仮説について」, 『藝文研究』(慶應義塾大学文学部)第103号, pp. 243-228, 2012年12月1日.
- 阿部宏 「空間移動表現の意味拡張について 「くる」と venir の場合」, 『川口順二氏退任記念論集』(慶應義塾大学文学部), 2012年12月26日.
- Hiroshi ABE « A propos de l’hétérogénéité de la phrase contradictoire en français », *Actes du XXVIe Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes*, Vol. 5, W. De Gruyter (Berlin), pp. 323-329, 2013年5月.
- 阿部宏 「フランス語におけるムードとモダリティ」, 『ひつじ意味論講座第3巻 モダリティ I: 理論と方法』, ひつじ書房, 2013年刊行予定.
- 阿部宏 「トートロジーと矛盾文における意味構築について」, 『トートロジー論集(仮題)』(坂原茂編), ひつじ書房, 2013年刊行予定.
- 阿部宏 「過去の語りに潜在する「わたし」・「いま」・「ここ」」, 『フランス語学の最前線2』, ひつじ書房, 2013年刊行予定.
- 今井勉 「ライオンとヒツジのあいだ」, 『仏語仏文学研究』第42号田村毅先生退官記念特集号(東京大学仏語仏文学研究会), pp. 145-154. 2011年5月.
- Yann MEVEL « *La Grande Beune*, de Pierre Michon : une poétique de l’ambivalence », *De Kafka à Toussaint, Ecritures du XX<sup>e</sup> siècle*, sous la direction de P. Bazantay et J. Cléder, Presses Universitaires de Rennes, 2010年.
- Yann MEVEL « Femme(s) en devenir - *Les Années*, d’Annie Ernaux », *Femmes, héroïnes, sociétés*, sous la direction de Makiko Nakazato et Naohiro Kimura, Presses universitaires de Morioka, 2011年.
- Yann MEVEL « Etre ou ne pas être écrivain ?, Autour de *La Dernière Bande*, de Samuel Beckett », *Impuissance(s) de la littérature ?*, sous la direction d’Eric Benoit et Hafedh Sfaxi, Sud Editions/Presses universitaires de Bordeaux, coll. « Entrelacs », 2011年.

- Yann MEVEL « Une émanation de la nuit ? – La figure de la femme japonaise dans la littérature de langue française », *Représentations comparées du féminin en Orient et en Occident*, sous la direction de Ch. Meure et M.F. Bosquet, Presses universitaires de Saint-Etienne, 2011 年.
- Yann MEVEL « Lire Beckett avec Starobinski », *Littérature*, numéro Samuel Beckett dirigé par M.Mégevand, 2012 年.
- Yann MEVEL « L'expérience beckettienne du visage : une ascèse ? », *Samuel Beckett* 2, sous la direction de L.Brown, Lettres Modernes, Minard, coll. « La Revue des Lettres Modernes », série Samuel Beckett, 2012 年.
- Yann MEVEL « Samuel Beckett : pourquoi la poésie ? », *Modernités*, numéro “Soi disant. Poésie et empêchements” dirigé par E.Benoit et M.Nakazato, Presses universitaires de Bordeaux, 2012 年.
- Yann MEVEL « Christian Gailly : un “pessimisme gai” ? », *Existe-t-il un style Minuit ?* dirigé par M.Autrand, K.Germoni et A. Jauer, Presses universitaires d'Aix-en-Provence, 2012 年
- Yann MEVEL « Pierre Michon et la bête humaine », *Pierre Michon écrivain*, sous la direction de Pierre-Marc de Biasi, Agnès Castiglione et Dominique Viart, Paris, Gallimard, 2012 年.
- Yann MEVEL « Mille et une nuits. Poétique de la nuit chez Samuel Beckett », *Le Nouveau Roman en questions*, n° 7, sous la direction de J. Faerber, Caen, Lettres Modernes - Minard, 2013 年.
- Yann MEVEL « M.Duras : poétique des sensations », *Orients de M.Duras* dirigé par F.de Chalonge, Y.Mével et A.Ueda, Amsterdam/New York, Rodopi. A paraître.
- Yann MEVEL « Marguerite Duras et l'ethos humoristique », *Marguerite Duras, le rire dans tous ses éclats*, Actes du colloque international sous la direction de Cécile Hanania (Western Washington University), sous l'égide de la Société Marguerite Duras. A paraître.
- Taku KUROIWA *Composer, jouer et diffuser les « paroles polies » – contribution à l'étude de la versification des sotties* – , 博士学位論文 (早稲田大学大学院文学研究科) , 2009 年 11 月 18 日学位授与.
- Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH « De l'oral à l'oral : réflexions sur la transmission écrite des textes dramatiques au Moyen Âge », *Médiévales*, 59, pp. 17-40, 2010.

黒岩卓 「『我らが主の受難の聖史劇』（サント＝ジュヌヴィエーヴ図書館所蔵写本 1131 収録）の孤立詩行の評価について」, 『Nord-est』第4号（日本フランス語フランス文学会東北支部会報）, pp. 70-83, 2011 年.

黒岩卓 「聖王の言葉の再編成—『聖ルイ殿の生涯』における韻文構築原理に関する覚書—」, 『聖地と聖人の東西—起源はいかに語られるか—』（藤巻和宏編）, 勉誠出版, pp. 235-253, 2011 年.

Darwin SMITH, Xavier LEROUX et Taku KUROIWA, « Ipotesi sul funzionamento della versificazione nella Passion de saint André », *Teatro religioso e comunità alpine, Atti del Congresso internazionale, Susa – Convento di San Francesco, 14-16 ottobre 2010*, Caterina Agus, Giuliana Gai et Andrea Zonato (dir.), Susa, Centro culturale diocesano di Susa et Università degli studi di Torino, pp. 182-194, 2011.

Taku KUROIWA « « Le viel jeu » en mouvement : la configuration rimique et métrique des triolets dans les manuscrits du *Mystère de la Passion* d'Arnoul Gréban », *Vers une poétique du discours dramatique au Moyen Âge* (Collection Babeliana 14), Paris, H. Champion, pp. 143-157, 2011.

Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH « Formes fixes : futilités versificatoires ou système de pensée ? », *Vers une poétique du discours dramatique au Moyen Âge* (Collection Babeliana 14), Paris, H. Champion, pp. 3-25, 2011.

Taku KUROIWA, « Notes sur l'apparition des vers isolés dans les imprimés des textes dramatiques médiévaux : le cas de la deuxième édition Trepperel de *Maistre Pierre Pathelin* », *Cahiers électroniques d'histoire textuelle du LAMOP* (CEHTL), 4, pp. 41-64, 2012.

黒岩卓 「『アラス受難劇』および『受難の聖史劇』（アルヌール・グレバン作）における「第一日目」の位置づけについて—内容の構成および韻文構造に関する覚書—」, 『ヨーロッパ中世の時間意識』甚野尚志・益田朋幸編, 知泉書館, pp. 163-178, 2012 年 5 月.

黒岩卓 「十五・十六世紀における劇テキストの写本とその使用—アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』H写本（Paris, BnF, fr. 1550）の例—」, 『日仏共同国際シンポジウム—演劇と演劇性—』, 早稲田大学演劇映像学連携研究拠点, 近日刊行予定.

黒岩卓 「アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』におけるアダムの描写について」, 『トラウマと喪を語る文学』中里まき子編, 朝日出版社, 近日刊行予定.

Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH, « *Les Recherches sur le vers français d'Henri Chatelain et la pratique théâtrale: essai d'historiographie versificatoire* », *Memini. Travaux et documents*, à paraître.

島貫葉子 「*Oh les beaux jours*, de Samuel Beckett - Le personnage de Winnie et l'image de l'oiseau chanteur -」, 国際シンポジウム成果報告論文集『女性・ヒロイン・社会 社会と時代の表象における女性像』, 中里まき子・木村直弘編, pp. 71-80, 2011年2月.

島貫葉子 「FLEにおける異文化教育について」, 『フランス文学研究』第32号(東北大学フランス語フランス文学会), pp.38-46, 2012年2月.

Yoko SHIMANUKI « Pourquoi acquérir et enseigner la « compétence interculturelle » ? – le contexte d'enseignement du français au Japon – », Actes du VIe Congrès international de l'AITF « Études francophones : enjeux et perspectives », 2013年1月.

## 1-2 著書・編著

阿部宏 『Nord-Est』(日本フランス語フランス文学会東北支部会報), 創刊号(2009年4月20日), 第二号(2009年5月20日), 創刊号・第二号合併号(冊子体, 2009年10月5日)責任編集.

今井勉 『Nord-Est』(日本フランス語フランス文学会東北支部会報), 第三号(2010年6月1日), 第四号(2011年4月15日), 第三号・第四号合併号(冊子体, 2011年5月25日), 第五号(2012年4月10日), 第六号(2013年4月15日), 第五号・第六号合併号(冊子体, 2013年5月25日)責任編集.

Yann MEVEL, co-direction avec Sjef Houppermans (Université de Leyde) et Dominique Rabaté (Université Paris 7), numéro *Filiations beckettiennes* de la revue *Samuel Beckett Today/Aujourd'hui*. 2012年.

Yann MEVEL *Orients de Marguerite Duras, Actes du colloque international*, Rodopi, (Amsterdam / New York), 2013年.

## 1-3 翻訳, 書評, 解説, 辞典項目等

阿部宏 「シンポジウム報告・構造主義とは何だったのか」(日本フランス語学会シンポジウム)(阿部宏・泉邦寿・青柳悦子・加賀野井秀一), 『フランス語学研究』第43号(日本フランス語学会), pp. 95-100, 2009年6月1日.



- 阿部宏 「新刊紹介・Larrivee, P. (2008) : *Une histoire du sens*, P.I.E. Peter Lang」 ,  
『フランス語学研究』第 43 号 (日本フランス語学会) , pp. 85-86, 2009 年 6  
月 1 日.
- 阿部宏 「海外報告・The 18th International Congress of Linguists」 , 『フランス語  
学研究』第 43 号 (日本フランス語学会) , pp. 114-115, 2009 年 6 月 1 日.
- 阿部宏 「ワークショップ報告・ソーシャルと 19 世紀—自筆原稿への新たな視点」,  
『学会ニュース』第 133 号 (日本フランス語フランス文学会) , pp. 4-5, 2009  
年 12 月 20 日
- 阿部宏 「ワークショップ報告・ソーシャルと 19 世紀—自筆原稿への新たな視点」  
(阿部宏・松澤和宏・金澤忠信・阿部宏) 『Cahier』 5 号 (日本フランス語  
フランス文学会) , 2010 年 3 月, pp. 4-7.
- 阿部宏 「シンポジウム報告・ことばに主体はどのようにあらわれるか -フラン  
ス語学と認知言語学-」 (平塚徹・武本政嗣・阿部宏・鍋島弘治朗) , 『フラ  
ンス語学研究』第 44 号 (日本フランス語学会) , pp. 101-105, 2010 年 6 月 1  
日.
- 阿部宏 「新刊紹介・Bernard Cerquiglini (2008), *Merci Professeur !*, Bayard」 , 『フ  
ランス語学研究』第 44 号 (日本フランス語学会) , pp. 93-94, 2010 年 6 月 1  
日.
- 阿部宏 「フランス語質問箱 (繰り返し表現, *il y a X et X, le X des Xs*)」 , 『フ  
ランス語学研究』第 44 号 (日本フランス語学会) , pp. 127-130, 2010 年 6  
月 1 日.
- 阿部宏 「ワークショップ報告・ダイクシス動詞「行く」と「来る」の日仏対照」  
(ワークショップ「対比, 非対称性・意味の拡張メカニズム」) 『日本認知  
言語学会論文集』第 11 巻, pp. 600-603, 2011 年 4 月 16 日.
- 阿部宏 「海外報告・第 26 回国際ロマンス言語学文献学会」 , 『フランス語学  
研究』第 45 号 (日本フランス語学会) , pp. 125-126, 2011 年 6 月 1 日.
- 阿部宏 「書評・「ソーシャル」以前のソーシャル, 「ソーシャル」以外のソシ  
ュール ソシユール原資料研究の試み: 小松英輔著『もう一人のソーシャル』,  
エディット・パルク, 2011」 , 『図書新聞』第 3026 号, 2011 年 8 月 13 日,  
第 5 面.
- 阿部宏 「書評: Yumi TAKAGAKI (高垣由美) , *De la rhétorique contrastive à la  
linguistique textuelle : l'organisation textuelle du français et du japonais*, Osaka  
Municipal Universities Press & Publications des Universités de Rouen et du Havre,

- 2011」, 『Cahier』 (日本フランス語フランス文学会), 09, mars 2012, pp. 14-16.
- 阿部宏 「談話会報告・フランス語における矛盾文と疑似矛盾文について」 (談話会「否定をあらわすもの・否定があらわすもの」大久保朝憲, 阿部宏, 有光奈美, 田中廣明), 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会), 第46号, pp. 111-113, 2012年6月1日.
- 阿部宏 「国際研究会報告・Quatrième colloque international de l'Association Française de Linguistique Cognitive」, 『フランス語学研究』 (日本フランス語学会), 第46号, pp. 121-123, 2012年6月1日.
- 阿部宏 「ワークショップ報告・Saussure et Benveniste après un demi-siècle」, 「ソシュール没後100年—100年の言語学」, 『Cahier』 (日本フランス語フランス文学会), 11号, 2013年3月, p. 29.
- 阿部宏監訳 (前島和也, 川島浩一郎訳) エミール・バンヴェニスト『言葉と主体』, 岩波書店, 2013年10月刊行予定.
- 今井勉 「アントワーヌ・コンパニオン「今日の写真小説」」, 『水声通信』第31号, 水声社, pp. 35-55, 2009年9月.
- 今井勉 「講演会報告: 今日の写真小説」, 『フランス文学研究』第30号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 54-55, 2010年2月
- 今井勉 アントワーヌ・コンパニオン『第二の手, または引用の作業』, 水声社, 576 p. (原著 Antoine Compagnon, *La seconde main ou le travail de la citation*, Paris, Seuil, 1979, 408 p. ) 2010年3月.
- 今井勉 ルイ＝ジャン・カルヴェ『言語戦争と言語政策』, 三元社, (共訳者: 砂野幸稔, 西山教行, 佐野直子, 中力えり), 担当: 第1章, 第2章, 第3章, 第4章. (原著 Louis-Jean Calvet, *La guerre des langues et les politiques linguistiques*, Paris, Hachette, 1999 (Payot, 1987 pour la première édition) (chap. 1, 2, 3, 4). ) 2010年4月.
- 今井勉 ミシェル・ジャルティ「前衛と後衛のあいだのヴァレリー」, 塚本昌則・鈴木雅雄編, 『〈前衛〉とは何か? 〈後衛〉とは何か? 文学史の虚構と近代性の時間』, 平凡社, pp. 72-93. (原著 Michel Jarrety, *Valéry entre avant-garde et arrière-garde*, in *La conception du temps humain et ses métamorphoses dans la littérature française*, Research Project Report Grant-in-Aid for Scientific Research(B) (2), sous la direction de Masanori Tsukamoto, April 2007, p. 449-464. ) 2010年4月.
- 今井勉 「硬質の抒情 詩人ミシェル・ドゥギーの仙台ライブ」, 『水声通信』

- 第 33 号, 水声社, pp. 13-20, 2010 年 7 月.
- 今井勉 「『海辺の墓地』の死生観」, 人文社会科学講演シリーズ V 『生と死への問い』, 正村俊之編, 東北大学出版会, pp. 139-176, 2011 年 1 月.
- 今井勉 「講演会報告: 詩人哲学者ミシェル・ドゥギーの自作解題」, 『フランス文学研究』第 31 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 35-36, 2011 年 2 月.
- 今井勉 「講演会報告: ランボールの物語散文: 『地獄の季節』プロローグの研究」, 『フランス文学研究』第 31 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 37-38, 2011 年 2 月.
- 今井勉 『フランス文化 55 のキーワード』 (朝比奈美知子・横山安由美編著), 項目執筆 (7 第二次世界大戦, 8EU, 16 現代思想, 18 科学と医学, 36 交通機関, 37 動物, 38 政治, 41 移民, 55 海外県・海外領土), 第 5 章概説 (現代社会の諸問題), ミネルヴァ書房, 2011 年 4 月.
- 今井勉・中村俊直編訳 『ヴァレリー集成』 V 「《芸術》の肖像」, 筑摩書房, 507 p. 2012 年 2 月.
- 今井勉 「新たな読み直しの契機—『ヴァレリー集成』全六巻の刊行に寄せて—」, 『フランス文学研究』第 32 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 49-51, 2012 年 2 月.
- 今井勉 「講演会報告: 『地獄の季節』の二重の誕生」, 『フランス文学研究』第 32 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 53-54, 2012 年 2 月.
- 今井勉 「講演会報告: 写真映りのよい詩人, ボードレールの現代性」, 『フランス文学研究』第 33 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 62-63, 2013 年 2 月.
- Yann MEVEL six articles pour le *Dictionnaire Beckett*, sous la direction de Marie-Claude Hubert, Paris, H.Champion, 2011.
- 黒岩卓 「講演会報告: 十五世紀の劇作家・歌手・教育家アルヌール・グレバンの経歴 - パリからフィレンツェまで」, 『フランス文学研究』第 32 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 55-56, 2012 年 2 月.
- 黒岩卓 「シンポジウム報告: 古い文学と私たち」 (小栗栖等・黒岩卓・岩下綾・千川哲生), 『フランス文学研究』第 33 号 (東北大学フランス語フランス文学会), pp. 55-63, 2013 年 2 月.
- 黒岩卓 「書評: 川那部和恵『ファルスの世界 一五〜一六世紀フランスにおける「陽気な組合」の世俗劇』 (溪水社, 2011 年)」, *Cahier* 第 11 号 (日本

フランス語フランス文学会) , pp. 30-32, 2013 年 3 月.

黒岩卓 「シンポジウム報告：ジャンヌ・ダルクのさまざまな表象—生誕 600 年を記念して—」 (中里まき子, 黒岩卓, 寺本弘子), 『Nord-Est』 (日本フランス語フランス文学会東北支部会報), 第 6 号, pp. 1-18.

黒岩卓 ダルウィン・スミス「フランスの演劇伝統における文書の位置 (十三世紀から十六世紀まで)」, 『日仏共同国際シンポジウム—演劇と演劇性—』, 早稲田大学演劇映像学連携研究拠点 (原著 Darwin Smith, « La place de l'écrit dans la tradition dramatique en France (XIII<sup>e</sup>-XVI<sup>e</sup> siècles) »), 近日刊行予定.

Taku KUROIWA, « *La Sottie de Coppieurs et Lardeurs* » pour *Le théâtre français du Moyen Âge et de la Renaissance*, dirigé par Darwin Smith, Olivier Halévy et Gabriella Parussa, Paris, L'avant-scène théâtre, à paraître.

翠川博之「書評・山縣熙, 『劇作家サルトル』 (作品社, 2009 年)」, 『図書新聞』 2913 号, 4 面, 2009 年 4 月 11 日.

Yoko SHIMANUKI, « Astronomie », *le Dictionnaire Beckett*, sous la direction de Marie-Claude Hubert, Paris, H.Champion, 2011.

#### 1-4 口頭発表

阿部宏 「主観性と文法化・無意味文・省略文」, 「ことばに主体はどのようにあられるか：フランス語と認知言語学」 (日本フランス語学会・シンポジウム) (於中央大学), 2009 年 5 月 23 日,

Hiroshi ABE « Étude contrastive japoно-française sur la “désirabilité” », Troisième colloque international de l'Association Française de Linguistique Cognitive (Paris Ouest Nanterre La Défense), 2009 年 5 月 27 日.

阿部宏 「ソーシャルと主体概念」, 「ソーシャルと 19 世紀 - 自筆草稿への新たな視点」 (日本フランス語フランス文学会本会秋季大会) (於熊本大学), 2009 年 11 月 8 日.

Hiroshi ABE « A propos de l'hétérogénéité de la phrase contradictoire en français », XXVI<sup>e</sup> Congrès International de Linguistique et de Philologie Romanes (Université de Valence), 2010 年 9 月 6 日.

阿部宏 「ダイクシス動詞「行く」と「来る」の日仏対照」, ワークショップ「対比・非対称性・意味の拡張メカニズム」, 日本認知言語学会・第 11 回大会 (於立教大学) 2010 年 9 月 11 日.

Hiroshi ABE « A propos de la subjectivation de l'échelle dans *PLUS QUE* », Quatrième

colloque international de l'Association Française de Linguistique Cognitive (Lyon, Université Lyon II), 2011 年 6 月 24 日.

阿部宏 「日本語における「XはXでない」型の矛盾文の分析, A analysis of the "X isn't X" type of contradictory sentence in Japanese」, 14th European Association for Japanese Studies International Conference (Tallinn (Estonia), Tallinn University), 2011 年 8 月 25 日.

阿部宏 「全学教育フランス語の現状と課題」, 「シンポジウム・東北大学における初修外国語教育」(東北大学高等教育研究開発推進センター・教育関係共同利用拠点プログラム)(於東北大学) 2011 年 10 月 13 日.

阿部宏 「フランス語における矛盾文と疑似矛盾文について」, シンポジウム「否定をめぐる」(フランス語談話会)(於京都大学), 2011 年 11 月 19 日.

阿部宏 「トートロジと矛盾文における意味構築について」, 「トートロジ・ワークショップ」(東京大学(駒場)), 2012 年 9 月 23 日.

阿部宏 「Saussure et Benveniste après un demi-siècle」, 「ワークショップ・ソシエール没後 100 年—100 年の言語学」(日本フランス語フランス文学会秋季大会)(於神戸大学), 2012 年 10 月 21 日.

今井勉 「ヴァレリー＝ポー／根源的詩学の探求—ポー『詩学の哲学』とヴァレリー『レオナルド・ダ・ヴィンチ方法序説』を中心に—」, 日本ポー学会ポー生誕 200 年記念第 2 回年次大会ワークショップ「19 - 20 世紀フランス文学におけるポーの影響」(於慶應義塾大学), 2009 年 9 月 20 日.

今井勉 「ポール・ヴァレリーとレオナルド・ダ・ヴィンチ」, 東北大学英文学研究室『試論』合評会特別講演(於東北大学), 2010 年 10 月 2 日.

今井勉 「イメージの終焉?—1930 年の欄外注草稿を読む—」, シンポジウム「無名時代 ~表現の獲得と揺らぎ~」(鎌田隆行, 今井勉, 深井陽介, 中島淑恵)(司会: 阿部宏)(於東北大学), 2012 年 12 月 8 日.

Tsutomu IMAI «*Été, poème descriptif de Paul Valéry*», Colloque International «*Transmission et transgression des formes poétiques régulières*», Chuo University, Tokyo, 7 septembre 2013.

Tsutomu IMAI «*Lettre d'amour dans un tiroir — lire quelques manuscrits trouvés dans le Dossier "Madame de R."—*», Journées Paul Valéry «*VALÉRY EN SES MIROIRS INTIMES*», Musée Paul Valéry, Sète, 20 septembre 2013.

Yann MEVEL «*Etre ou ne pas être écrivain? – Autour de La Dernière bande de Samuel Beckett*», 国際学会 «*Impuissance(s) de la littérature ?*» (Université

de Gafsa) 2009年4月2-4日.

Yann MEVEL « M.Duras : poétique des sensations dans l'œuvre indochinoise », マルグリット・デュラス国際学会 《 *Orients de Marguerite Duras* 》 (於東北大学) 2009年9月10日.

Yann MEVEL « Femme(s) en devenir. *Les Années d'Annie Ernaux* », 国際シンポジウム「女性・ヒロイン・社会」 (於岩手大学), 2010年9月4日.

Yann MEVEL « Où est le mal – Autour des “Boulevards de ceinture” de Patrick Modiano », 国際学会 « *La Question du mal : littérature, éthique, politique* » (Georgetown University) 2012年3月15日.

Yann MEVEL « Christian Gailly : un “pessimisme gai” ? », 国際学会 « *Existe-t-il un style Minuit ?* » (Université d'Aix-en-Provence) 2012年5月24日.

Yann MEVEL « Samuel Beckett : pourquoi la poésie ? », 国際学会 « *Soi disant. Poésie et empêchement* » (Université Bordeaux3) 2012年9月12日.

Yann MEVEL « L'écrivain face à l'imaginaire. Regard croisés sur une catastrophe japonaise », 国際学会 « *27e Congrès mondial du Conseil international d'études francophones* » (Centre international de conférence de Grand - Baie, Ile Maurice) 2013年6月9日.

Taku KUROIWA, Xavier LEROUX, Darwin SMITH « *Ipotesi sulla funzione del testo drammatico fra scrittura e oralità : il problema dei versi detti « irregolari » nei testi drammatici occitani* », 国際研究集会 *Teatro religioso et comunità alpine* (於スーザ教区センター (トリノ)), 2010年10月15日.

黒岩卓 「中世演劇の韻文構築原理を巡る諸問題：サント・ジュヌヴィエーヴ図書館所蔵写本 1131 に収録された諸作品を例に」, 日本フランス語フランス文学会 2010年度東北支部大会 (於秋田大学), 2010年11月13日.

黒岩卓 「後期中世演劇作品を読む—鑑賞と研究上の経験から」, シンポジウム「古い文学と私たち」 (東北大学大学院文学研究科主催) (於東北大学), 2011年12月9日.

黒岩卓 「「中世演劇テキストの写本とその使用—アルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』H写本 (Paris, BnF, fr. 1550) の例—」 (« *Les manuscrits des textes dramatiques médiévaux et leurs utilisations : le cas du manuscrit H du Mystère de la Passion d'Arnoul Gréban (Paris, BnF, fr. 1550)* »), 日仏共同国際シンポジウム「演劇と演劇性」 (於早稲田大学), 2012年10月30日.

黒岩卓 「中世演劇におけるジャンヌ・ダルクー『オルレアン攻囲の聖史劇』を

巡って一」，シンポジウム「ジャンヌ・ダルクのさまざまな表象～生誕 600 周年を記念して～」，日本フランス語フランス文学会 2012 年度東北支部大会（於岩手県立大学），2012 年 11 月 3 日。

黒岩卓 「『受難の聖史劇』諸版におけるアダムとその死」，シンポジウム「鎮魂の祈り、そして共同体の再構築 ～文学を中心に～」（於岩手大学），2012 年 12 月 22 日。

黒岩卓 「十五・十六世紀のフランス語による劇作品における韻文形式と作品伝承の関係について」，国際日本学共同研究古典テキスト校訂分科会 第四回研究会（於早稲田大学），2013 年 7 月 20 日。

Yoko SHIMANUKI « Pourquoi acquérir et enseigner la « compétence interculturelle » ? – le contexte d’enseignement du français au Japon – », Madurai Kamaraj University (Inde), 2012 年 2 月 17 日。

Yoko SHIMANUKI « Lyrisme et espace dans L’*Innommable* », Journée d’études doctorales sur Samuel Beckett, Université Paris VII, 2012 年 5 月 24 日。

Yoko SHIMANUKI « Pourquoi, quand et comment insérer l’approche interculturelle en FLE ? – la situation spécifique des cours de langue étrangère au Japon – », Sri Ramaswamy Memorial University, 2013 年 1 月 18 日。

## 2 教員の受賞歴（2009～2013 年度）

なし

## IV 教員による競争的資金獲得（2009～2013 年度）

### （1）科学研究費補助金

平成 19～21 年度 研究課題番号 19520323 基盤研究 (C) 研究代表者:阿部宏「言語における「望ましさ」概念と主観性に関する研究」（平成 19 年度・直接経費 1,000,000 円，間接経費 300,000 円，平成 20 年度・直接経費 900,000 円，間接経費 270,000 円，平成 21 年度・直接経費 1,000,000 円，間接経費 300,000 円）

平成 19～21 年度 研究課題番号 07J02848 特別研究員奨励費 研究代表者：黒岩卓「神の歴史と阿呆の歴史-後期中世フランス演劇における世界の記述と詩作技巧」（平成 19 年度・直接経費 1,200,000 円，平成 20 年度・直接経費 1,100,000 円，平成 21 年度・直接経費 1,100,000 円）

平成 20～22 年度 研究課題番号 20520274 基盤研究 (C) 研究代表者:今井勉「ポール・ヴァレリー詩学の生成論的研究」（平成 20 年度・直接経費 1,200,000

円, 間接経費 360,000 円, 平成 21 年度・直接経費 1,100,000 円, 間接経費 330,000 円, 平成 22 年度・直接経費 900,000 円, 間接経費 270,000 円)

平成 20～22 年度 研究課題番号 20520275 基盤研究 (C) 研究代表者: 翠川博之  
「サルトル演劇に見るモラルの研究」(平成 20 年度・直接経費 800,000 円, 間接経費 240,000 円, 平成 21 年度・800,000 円, 平成 22 年度・1,600,000 円)

平成 22～24 年度 研究課題番号 22720133 若手研究 (B) 研究代表者: 黒岩卓  
「グレバン作『受難の聖史劇』諸写本の研究—作品伝承と詩作技巧—」(平成 22 年度・直接経費 500,000 円, 間接経費 150,000 円, 平成 23 年度・直接経費 500,000 円, 間接経費 150,000 円, 平成 24 年度・直接経費 500,000 円, 間接経費 150,000 円)

平成 22～24 年度 研究課題番号 22520292 基盤研究 (C) 研究代表者: ヤン・メ  
ヴェル「サミュエル・ベケットの間文化的研究」(平成 22 年度・直接経費 800,000 円, 間接経費 240,000 円, 平成 23 年度・直接経費 700,000 円, 間接経費 210,000 円, 平成 24 年度・直接経費 600,000 円, 間接経費 180,000 円)

平成 23～25 年度 研究課題番号 10212549 基盤研究 (C) 研究代表者: 阿部宏「情  
報欠落文における主観性介入に関する日仏英対照言語学的研究」(平成 23 年  
度・直接経費 1,300,000 円, 間接経費 390,000 円, 平成 24 年度・直接経費 1,200,000 円, 間接経費 360,000 円, 平成 25 年度・直接経費 1,000,000 円, 間  
接経費 330,000 円)

平成 23～25 年度 研究課題番号 23520360 基盤研究 (C) 研究代表者: 今井勉「ポ  
ール・ヴァレリー芸術論テキストの生成論的研究」(平成 23 年度・直接経費 1,600,000 円, 間接経費 480,000 円, 平成 24 年度・直接経費 1,400,000 円, 間  
接経費 420,000 円, 平成 25 年度・直接経費 900,000 円, 間接経費 270,000 円)

平成 25～27 年度 研究課題番号 25370336 基盤研究 (C) 研究代表者: ヤン・メ  
ヴェル「フランス語系サミュエル・ベケットセミナー」(平成 25 年度・直  
接経費 700,000 円, 間接経費 210,000 円, 平成 26 年度・直接経費 700,000 円,  
間接経費 210,000 円, 平成 27 年度・直接経費 700,000 円, 間接経費 210,000 円)

平成 25～28 年度 研究課題番号 25770121 若手研究 (B) 研究代表者: 黒岩卓「ア  
ルヌール・グレバン作『受難の聖史劇』諸写本における異文と記号の研究」  
(平成 25 年度・直接経費 700,000 円, 間接経費 210,000 円, 平成 26 年度・  
直接経費 700,000 円(見込み), 平成 27 年度・直接経費 700,000 円(見込み),



平成 28 年度・直接経費 700,000 円（見込み）

## （2）その他

なし

## V 教員による社会貢献（2009～2013 年度）

阿部宏

リール第 3 大学博士課程学生 1 名の論文指導（2012 年 4 月-2013 年 3 月，リール第 3 大学との学術研究受け入れ協定による）

「ことばの科学」，青陵中等学校出張講義，2013 年 11 月 12 日．

今井勉

「文学都市パリの構造」，福島県立安積高等学校出張講義，2009 年 7 月 2 日．

「河野与一とフランス文学」，宮城県丸森町齋理蔵の講座，2010 年 9 月 4 日．

「フランス語圏クレオール文芸の問題性」，みやぎ県民大学「大学開放講座」，於東北大学，2010 年 9 月 17 日．

「フランス文学研究入門」，仙台三高進路講演会，2013 年 5 月 24 日．

黒岩卓

「口承と文書の意味と役割—中世・ルネサンスのフランス文学の例—」，みやぎ県民大学「大学開放講座」，於東北大学，2013 年 9 月 28 日．

## VI 教員による学会役員等の引き受け状況（2009～2013 年度）

阿部宏

東北大学フランス語フランス文学会 会長（2004 年 4 月～）

日本フランス語フランス文学会東北支部会誌編集責任者（2008 年 4 月～2009 年 11 月）

日本フランス語フランス文学会 編集委員（2009 年 5 月～2011 年 4 月）

日本フランス語学会 編集委員（2013 年 6 月～）

日本フランス語フランス文学会 支部代表幹事（2013 年 6 月～）

今井勉

東北大学フランス語フランス文学会 役員，編集委員長（2001 年 4 月～）

日本フランス語フランス文学会東北支部会誌編集責任者（2009 年 11 月～）

2013年6月)

日本ヴァレリー研究会編集委員 (2010年12月～)

ヤン・メヴェル

マルグリット・デュラス国際学会共同主催者:《Orientes de Marguerite Duras》  
(於東北大学) 2009年9月9-11日.

役職名: responsable scientifique et intervenant.

日本サミュエル・ベケット研究会主催 Journée d'études « Samuel Beckett et la  
culture française »共同主催者 (於青山学院大学) 2012年12月21-22日.

役職名: responsable scientifique et intervenant.

黒岩卓

日本フランス語フランス文学会 資料調査委員 (2007年6月～2010年5月)

東北大学フランス語フランス文学会 役員, 編集委員 (2011年4月～)

日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員 (2011年5月～)

早稲田大学ヨーロッパ中世ルネサンス研究所 招聘研究員 (2011年9月～)

フランス国立科学研究センター パリ西洋中世研究所 (LAMOP) 共同研究  
員 (chercheur associé) (2012年6月～)

翠川博之

東北大学フランス語フランス文学会 役員, 編集委員 (2004年4月～)

島貫葉子

東北大学フランス語フランス文学会 役員, 編集委員 (2010年4月～)

L'Institut Culture, Économie et Géopolitique (président Yves Monteny, ICEG,  
Paris)の研究プロジェクト「Le français, la diversité culturelle et la mondialisation」に参加 (2012年3月～)

## VII 教員の教育活動

### (1) 学内授業担当 (2013年度)

#### 1 大学院授業担当

阿部宏 教授

1学期 フランス語学研究演習 I フランス語学の現代的トピック I

2学期 フランス語学研究演習 II フランス語学の現代的トピック II

通年 課題研究 (フランス語学フランス文学)

今井勉 教授

1学期 フランス文学特論 I 現代詩研究 (1)

- 2 学期 フランス文学特論 II 現代詩研究 (2)
- 1 学期 フランス文学研究演習 I ヴァレリーを読む (1)
- 2 学期 フランス文学研究演習 II ヴァレリーを読む (2)
- 通 年 課題研究 (フランス語学フランス文学)

ヤン・メヴェル 准教授

- 1 学期 フランス語学研究演習 III Nathalie Sarraute (1)
- 2 学期 フランス語学研究演習 IV Nathalie Sarraute (2)
- 1 学期 フランス文学研究演習 III La mémoire à l'œuvre (1)
- 2 学期 フランス文学研究演習 IV La mémoire à l'œuvre (2)

黒岩卓 准教授

- 1 学期 フランス語学研究演習 V 中世・ルネサンスの伝説伝文学研究 (1)
- 2 学期 フランス語学研究演習 VI 中世・ルネサンスの伝説伝文学研究 (2)
- 通 年 課題研究 (フランス語学フランス文学)

## 2 学部授業担当

阿部宏 教授

- 3 セメスター フランス語学基礎講読 雑誌記事を読む
- 4 セメスター フランス語学概論 I 言語学の誕生から今日まで
- 5 セメスター フランス語学演習 I 言語における主観性
- 6 セメスター フランス語学演習 II フランス語の語彙と文法について考える

今井勉 教授

- 3 セメスター フランス文学基礎講読 I 近現代文学テキスト講読
- 4 セメスター フランス文学概論 II フランス文学史 (近現代)
- 5 セメスター フランス文学各論 I 現代詩研究 (1)
- 6 セメスター フランス文学各論 II 現代詩研究 (2)

ヤン・メヴェル 准教授

- 5 セメスター フランス文学演習 III Initiation à l'explication de texte (1)
- 6 セメスター フランス文学演習 IV Initiation à l'explication de texte (2)
- 5 セメスター フランス語科教育法 I Langue et culture de la France contemporaine (1)
- 6 セメスター フランス語科教育法 II Langue et culture de la France contemporaine (2)

黒岩卓 准教授

- 3 セメスター フランス文学概論 I フランス文学史（古典主義の成立前後まで）
- 4 セメスター フランス文学基礎講読 II 古典フランス語
- 5 セメスター フランス文学演習 I 中世・ルネサンスの伝説文学入門(1)
- 6 セメスター フランス文学演習 II 中世・ルネサンスの伝説文学入門(2)

### 3 共通教育・全学教育授業担当

阿部宏 教授

3 セメスター 展開フランス語 I

4 セメスター 展開フランス語 II

今井勉 教授

1 セメスター 基礎フランス語 I

2 セメスター 基礎フランス語 II

黒岩卓 准教授

1 セメスター 基礎フランス語 I

2 セメスター 基礎フランス語 II

#### (2) 他大学への出講 (2009～2013 年度)

今井勉 教授

2013 年度 放送大学（集中講義）

黒岩卓 准教授

2011 年度 京都大学（博士論文審査）

島貫葉子 助教

2011 年度～ 米沢女子短期大学